

令和5年度 小樽市立朝里小学校経営方針

1 本校の教育目標 (令和2年4月1日改訂)

- 進んでかかわり、共に高め合う子 コミュニケーション能力を育む
- 自ら学ぶ子 確かな学力を育む
- 思いやる子 豊かな人間性を育む
- たくましい子 心身の健康を育む

目標	進んでかかわり、共に高め合う子 (コミュニケーション能力)		
	自ら学ぶ子	思いやる子	たくましい子
視点	子ども一人一人が自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、判断・行動するなど、よりよく問題を解決できる子どもの育成	豊かな心を持ち、他者の気持ちや立場、集団における自らの役割を理解し、認め合いながら、故郷を愛し、国際性をもつ子どもの育成	生命の大切さを知り、健康な体で活動するとともに、物事を最後までやりとげる強い意志力をもったたくましい子どもの育成
価値要素	<確かな学び> ・思考力・判断力・表現力 ・探究心・向学心・創造性 ・自主性・自律性・実行力 ・集中力・根気	<豊かな感性> ・人間愛・自然愛・郷土愛 ・国際理解・共生・誠実 ・寛容・礼儀・感謝 ・奉仕・友情・勇気	<生命の尊重> ・健康・安全・勤労・責任 ・積極性・向上心・独創性 ・克己心・忍耐力・実践力

2 教育目標の具現化への育てたい子どもの姿の重点 ~R5.2.2 ワークショップより~

低学年	中学年	高学年
進んでかかわり共に高め合う子 [具体的な子どもの姿] よく聞き、よく考えて 行動する子	自ら学ぶ子 [具体的な子どもの姿] 自ら集中して取り組める子	進んでかかわり共に高め合う子 [具体的な子どもの姿] 何事にもチャレンジする子 (失敗を恐れない・自信をもつ)
		思いやる子 [具体的な子どもの姿] 何事も自分のこととして 考えられる子 (共感・思いやり)

3 学校経営の基本コンセプト

【目指す学校】

「夢と自信と地域への思いを育む学校」
～全職員によるあたたかいかかわりで自己肯定感を高めながら！～

朝里小チームスローガン

全職員で全児童を育てる！

令和4年度は、目指す学校へ向け、「全職員によるあたたかいかかわりで、自主性と向上心を高める」、そして、学校運営推進キーワード「人を大切にするチーム」を掲げ、教育活動を充実・推進させてきました。

コロナ禍3年目で、学校における新しい生活様式の徹底が継続して求められる中、行事の見直し、GIGAスクール推進でのタブレットの授業での積極的活用・デジタル教科書の活用・オンライン配信・働き方改革推進など、様々な学校課題への対応も求められました。そのような状況の中で、課題意識と取組の方向性を職員で共有し、研修も充実させながら協働的に学校運営を推進していくことができました。教育活動の充実と様々な業務の効率等も進み、働き方改革の一つの目安となる在校勤務時間の縮減にもつながられています。意識を共有して取り組む姿は、大変誇らしい学校組織の姿であり、チーム学校としての学校力の更なる高まりにつながりました。

また、子どもたちへのあたたかいかかわりによる日々の指導が、落ち着きある学校生活をつくり上げ、学習面・生活面での成長へとつなげることができました。「あたたかいかかわり」と「自己肯定感を高めるかかわり」は、朝里小中学校で連携する中でそろってきた生徒指導観です。安心・安全な学校風土の醸成につながる「全職員のあたたかいかかわり」と、子どもの資質・能力をのばす原動力「自己肯定感」の育成は、目指す学校づくりを支える重要なものですので、全職員で意識を共有し目指す学校の具現をお願いいたします。

地域・保護者に発信してきた「全職員で朝里小全児童を育てる」という姿勢は、R5年度、朝里小の学校チームスローガンとして継続し発信していくこととします。この数年の全職員で取り組んできた姿勢は、様々な場面での学校力として伝わり、保護者・地域の信頼につながってきている面が大きいと考えています。今後も「全職員で全児童を育てる」を重要な職員集団の姿勢として取り組んでいくこととします。

重点目標は、「**自分事として考え、進んで行動する朝里の子の育成**」としていきます。

本校児童の課題を何とか成長させられるように、重点目標は令和3年度は「自ら考え進んで行動する子」、令和4年度は「自ら課題を見つけて、自ら行動する子」と各学年で課題意識を高め重点化してきましたが、主体的に考え行動する力が高まっておらず、依然として課題となっていることが共有されています。引き続き重要な課題として、指導の重点化を図っていきます。

- ・落ち着いて静かに聞いているようだが、何も考えていないのでは…。
- ・話を聞いているようだが、実は、何も考えていない、自分は関係ないと…。
- ・生活面・学習面の様々なことが、他人事になってしまっているのではないかと…。
- ・自分事として考えても、自分を高めるために進んで取り組んだり、挑戦できない…。
- ・人の気持ちを考えられず、言動が…。

以上のような姿を、全職員の力で一歩ずつ主体的にかかわる姿へと変容させていきましょう。

全学年・全学級で日常的に生活・学習の様々な場面で、自分事として考えさせ、進んで行動する力につながられるよう指導・かかわりの重点化を図っていきましょう。

本校として目指す目標と方向性を皆で共有し、取組を重点化し、チーム力で乗り越えていきたいと考えています。お力を発揮していただけるようよろしくお願いいたします。

4 R5年度の重点目標

自分事として考え、進んで行動する朝里の子の育成

5 学校経営推進の重点項目

I 全職員のあたたかい生徒指導による安心安全な学校風土の醸成

子どもたちに確かな資質・能力を育成していくには、学校での安心安全な風土の醸成が不可欠です。本校では、「全職員で全児童を育てる」という意識を高め、全職員で生徒指導観を共有する取組を継続することで安心安全な風土と落ち着いた学習生活環境づくりを進めてきました。

今後も、児童一人一人に「全職員であたたかくかかわり、一人一人の自主性と向上心を高める」という生徒指導を継続していき、「子どもが友達や先生と安心してかかわり、進んで行動する力を育む学校生活」の具現化を図っていくことが重要だと考えます。

子どもの安心感を高めた安定的な学習生活環境をつくり上げ、各教育活動を充実させていく意識を全職員でさらに高めて、各学年の子どもたちに育てるべき資質・能力の確かな育成につなげていけるようにしていきたいと考えています。

資質・能力の育成には、学びの過程において子どもが主体的に活動する場面が不可欠です。本校児童の課題でもある「自分事として考えること」や「自ら行動する」といった主体的にかかわる力を育てて行くには、様々なことに自分事として活動していく機会の積み重ねが重要です。そのためにも、「子どもが友達や先生と安心してかかわり、進んで行動する力を育む学校生活」をつくりあげることが、大変重要だと考えます。

その実現のために、**生徒指導のビジョン（別紙）**を共有し、全職員で3つの視点での取組の継続と指導の重点化を図っていきます。

① 生徒指導の三機能を生かした指導を日々進めていく

生活・学習における生徒指導の基本として、全職員が「生徒指導の三機能」を生かした指導を行い、全学年・全児童の望ましい人間関係構築と自己指導能力・自己肯定感の向上につなげていく。

【生徒指導の三機能】

- 共感的人間関係の育成 → 児童と教師、児童間の理解が深まり信頼感が高まる
- 自己決定の場を発達段階に応じて与えていく → 自己指導能力を高める
- 自己存在感を感じる場・機会をつくっていく → 価値ある存在であることを実感

② 個々への丁寧かつあたたかいかわりで適切な指導に心がける

ひびかせなければ、押しつけることしかできません。

子どもは、先生が自分を見ている・見てくれているということで、信頼関係と教師の声がひびく土壌がつくられていきます。先生方のあたたかいかわりで心にひびく関係づくりの上で、適切な指導を工夫し確かな変容につなげられたらと思います。

③ 「全職員で全児童を育てる」の基本姿勢で共通指導を行っていく

全職員での生徒指導上の目指す姿の共有と共通指導（別紙）を継続し、学級・学年を越えて積極的に子どもたちに声をかけていく。学校生活の様々な場面で、子どもたちを褒めたり注意をうながして、大切な事を身につけ高めていけるようにしていく。

特に挨拶は、相手意識や思いやりの心を育てたり、自分自身を前向きにさせるなど重要なソーシャルスキルなので、多くの職員と挨拶する環境をつくり、進んで挨拶のできる朝里小児童に育てていく。

Ⅱ 主体的に学ぶ力・協働的に学び深める力の育成を目指した授業実践

国は、これからの目指す学校教育として、「個別最適な学びと協働的な学びによる令和の日本型学校教育」と定義しました。「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図りながら「主体的・対話的で深い学び」により、全ての子どもたちの可能性を引き出すことを目的としています。

これを具現化していくには、子ども一人一人の主体的に学ぶ力と協働的に学び深めていく力を育む学習活動の学習経験を各学年で確実に積み重ね、小中学校9年間で構築していくことが求められます。

身に付けさせるべき資質・能力を一人一人に確実に育成していくためには、授業を「学習者（子ども）の視点」で見直し、指導者の一方向的な講義型授業から学習者である「**子どもが主体的に活動する授業**」を中心として授業を変えていくことは、今や待ったなしの不可欠なものになっています。

又、個別最適な学びと協働的な学びを一体的かつ効率的におこなっていくためにはタブレット端末等のICT活用を前提とした授業構築の発想と日々の実践検証による授業の充実を図ることが重要です。

このように授業観・学習観が大きく変わる中で、我々教師自身も互いに学び合いながら、個別最適な学び、協働的な学びの充実を通じた「主体的・対話的で深い学び」の実現へ向け、下記の取り組みを学校全体で進めていきます。

① 問題解決型の学習を基本とした日々の授業改善に取り組む

「主体的に学び深める力の育成」へ向け、個々の探究的な学びにつながる問題解決型の学習の充実へ向けた授業実践に学校全体で取り組む。

本校児童の課題である「自ら学ぶ力(教育目標)」には、個々の主体的な学びの過程が中心となる問題解決型の学習を通じた資質・能力の育成が重要と考えます。

子どもたちが問題解決型の学習へ様々な教科学習の中で日々取り組む中で、主体的に学習活動に取り組む力と、進んで自分の考えを表現し協働的に問題解決していく力を高めていけるよう授業改善に学校全体で課題意識を高めて取り組んでいきます。

★校内研修の取組（研究内容等）をふまえた授業の実践検証に取り組む

★「小樽授業づくり5つのステップ」をふまえた授業の実践検証に取り組む

② 主体的な学びの過程として、一人一人に活動を委ねる場面を設定した授業を進める！

一人一人に主体的に学ぶ力と協働的に学び深める力を育成するために、教師主導の「教え」から児童主体の「学び」への転換をふまえた「**学びの過程の姿**」を重視した授業実践への改革を進めていきます。

以下のような「一人一人が主体的に学習活動に取り組む過程」を取り入れた授業改善を進めます。

【主体的な学びの学習活動(例)】

■一部の児童の発表で進むのではなく、自分の考えの表現活動が多くある授業

（話が聞くことが多い授業、一問一答の授業 からの脱却を！）

■考えを出し合い、友だちの考えと比べて、対話して協働的に考え深めていく活動のある授業

■学んだことを身近な生活と結びつけて考え深めたり、学習を振り返る場面がある授業

■学んだことを確かめるために自分なりに問題に挑戦する活動がある授業

■関連する問題・発展的な問題に自ら挑戦していく場面がある授業

など

③ タブレット端末活用による主体的な学びの過程を取り入れた授業づくりを進める！

タブレット端末を日常の授業で積極的に活用し、上記②の主体的な学びを主とした授業づくりに学校全体で取り組みます。

タブレット端末は、学習活動において一人一人に自分事としてかわらせられる側面があります。授業への参加意識を高め主体的な学びにつなげる上で大変効果的な学習用具だと考えます。また、一人一人が自分のペースやこだわりを生かして表現活動していけることやそれを互いに共有することもできます。タブレット端末は、教師に指示されたり与えられた学習活動だけではなく、自ら調べたい時には調べたり、表現したいときには表現ツールとして使っていく、そんな当たり前の学習道具にしていくはたらきかけが重要です。

「主体的・対話的で深い学び」へ向け充実させるべき「個別最適な学び」と「協働的な学び」を効率的かつ計画的に進めて行くには、「タブレット端末の活用を前提とした授業づくりが重要だと考えます。

子どもが他の子どもや教師などと対話的に学び深めたり、協働的に思考を見える化しながら考え深めていく協働的な学びや、自分の学びを継続的に振り返る活動においても、タブレット端末の活用は大変効果的であり不可欠な学習用具となっています。

また、支援が必要な子どもにより重点的な指導を行うことや子どもの特性や学習進度、学習到達度に応じて指導方法や教材や学習時間の柔軟な提供・設定をしていく「指導の個別化」や、探究活動において子ども一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組みせたり、子ども自身が最適に学習を調整する「学習の個性化」に対応するなど、個別最適な学びを充実させていくには、タブレット活用が不可欠です。

効果的な活用方法を皆で研修し合いながら、学校全体で取り組んでいきましょう。

※【めざす令和の日本型学校教育の姿】

子どもの視点に立った学習指導、全ての子どもの可能性を引き出す「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させながら、「主体的・対話的で深い学び」の実現を図る。

- 子どもの実態(特性・必要な支援・学習進度の差など)に応じた「指導の個別化」
- 一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供する「学習の個性化」
- 「孤立した学び」に陥らないよう、探究的な学習や体験活動等で他者と協働しよりよい学びを生み出す「協働的な学び」

Ⅲ 協働性・効率性を高めた組織的な学校運営の推進

R5年度も、組織的な学校運営の推進へ向け、教育活動・業務内容・業務分担の見直し、協働性と効率性を高めた業務推進につなげられるように皆で知恵を出し合いながら取り組んでいきます。

学校課題はつきることがありません。新たな課題にも臨機応変に学校全体での対応していく体制が求められています。また、生徒指導・学習指導の準備、分掌業務など必要な業務にしっかりと向き合える時間を勤務時間内に生み出していける工夫を今まで以上にしていかなければならないと考えています。

突発的な対応も日常的に起こりやすいのが学校です。学年や担任だけの対応は、不可能です。担任や一部の教職員が個別に業務推進に追われるのではなく、学校全体で支え合い連携していかなければな

りません。

全職員で課題・情報・取組の共有する意識を高め、四役・学年・各部・特別委員会を連携させて教育活動の推進や学校課題の解決へ向けた取組をより協働的に推進していきたいと考えています。

管理職も含めて「皆で取り組み、皆で早く帰る。」という意識で働き方改革につなげていきます。

■協働的かつ効率性の高い組織へ向け以下の取組を行う。

○各部・特別委員会の開催は最低限にしながらも、協働的に各課題解決に取り組むための話し合いの機会を定期的に設定する。

○ICTの有効活用による学校情報化を推進し、情報発信のペーパーレス化、保護者への連絡の効率化、教職員の情報共有の効率化と各種校務の効率化・スリム化を進める。

■下記の各部の課題は、特に協働して業務を進めて取組の充実を図る。

チーム自ら学ぶ子

- ・家庭学習定着を推進
- ・学力向上へ向けた実態把握・各種調査等の分析・改善方策の検討
- ・「主体的・対話的で深い学び」「タブレットの有効活用」の研修・授業実践
- ・教育活動、学校行事の内容や実施方法の見直し

チーム思いやる子

- ・行事における内容や実施方法の見直し
- ・GIGA スクール推進へ向けたタブレットの有効活用(授業及び他の活用)
- ・デジタル教科書の有効活用へ向けた情報交流・実践検証等
- ・読書習慣向上への働きかけ

チームたくましい子

- ・新しい生活様式をふまえた学校生活の見直し・検討
- ・行事における内容や実施方法の見直し
- ・体力向上へ向けた実態把握・各種調査等の分析・改善方策の検討(全国体力・運動能力・運動習慣調査の分析)
- ・アレルギー等への組織的な対応

チームかかわり

- ・地域との連携事業の検討・実施
- ・いじめ未然防止への情報・指導の共有と早期解決への組織的な連携
- ・特別支援教育・教育相談の充実へ向けた研修の企画・推進
- ・小中一貫教育の推進

IV 9年間で確かな資質・能力を育む小中一貫教育の取組の推進

子どもたちに身につけるべき資質・能力を身につけさせていくためには、義務教育9年間を見据えて、小中学校の教職員が共に児童生徒理解を深め、系統性を整えたり重点的な指導をそろえるなど取り組みの協働性を高めて効果的な指導につなげることが重要です。

ここ数年、長期休業期間等を利用し夏冬に合同研修会を実施でき、小中教職員の児童生徒への理解と指導の共有が進められてきました。

この連携をもとに、朝里小中一貫教育グランドデザインにあるように生徒指導の基本スタンスとして「児童・生徒を中心に考える～一人一人に愛情をもって関わり自己肯定感を高める～」が貫かれて

います。このことは、卒業生が安心して中学校で自分の力を発揮していけるスムーズな連携を支える柱になっています。

自己肯定感を高めることは、児童・生徒の積極的な学校生活・学習につながり、身につけるべき資質・能力の確かな育成につながります。今後も、この先生方の素晴らしい取組を継続発展させていく必要があります。

R5年度も、中1ギャップ解消・9年間での資質・能力の育成を見据え、前例にとられない事業や出前授業の検討・実施が進むことを期待しています。

学習指導における指導の重点・共通実践を明確にする！

子どもたちに身につけるべき資質・能力を身につけさせていくためには、やはり授業実践での取組が必須です。R5年度は、小・中学校で授業の中で重点化を図り育てていく力を明確にして、授業で取り組んでいく取組を共有していけることを期待しています。

両校の教員主体による研修会・授業参観等を行い、児童・生徒の姿をもとに、児童・生徒の課題克服へ向けた指導の重点化や、育てるべき資質・能力を共有し共通実践を明確にして授業実践していく取組が生まれていくことを期待しています。

(参考)朝里小中一貫の合同研修会で話題にあがった朝里小児童に身につけさせたい姿

- だれにでもしっかりあいさつできる。
- 授業の始まりと終わりの礼をきちんとして、切り替えられるようにする。
- 話をきちんと聞ける。
- 家庭学習を毎日する習慣が身についている。
- 自分の考えを自分の言葉で説明できる。(グループでの話し合える。)
- 自分だけで考え行動し乗り切る難しさのある活動経験を積ませる。

6 具体的な推進内容

(1) 未来を創る力の育成

確かな資質・能力の育成

- 主体的・対話的で深い学びの実現
- 「令和の日本型学校教育」としての個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る。
- タブレット端末の授業及び家庭学習での効果的な活用による主体的に学ぶ力の育成
- 確かな学力（学びに向かう力、知識・技能、思考力・判断力・表現力）の育成
- デジタル教科書（算数・外国語）の積極的活用
- 情報処理能力の育成
- プログラミング教育・外国語教育・キャリア教育の充実
- 特別支援教育の充実

【具体的取組】

- ①「小樽 授業づくりの5つのステップ」及び研修による「目指す授業」をふまえた、授業づくりを各自工夫実践し、日常的に授業改善を進める。
- ②タブレット端末等 ICT 機器やデジタル教科書を効果的に活用し、個別最適な学びと協働的な学びの活動を取り入れた授業実践を重ね、子ども一人一人が主体的に学ぶ授業へと改善を進める。
- ③「主体的・対話的で深い学び」の具現化へ向け、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させた授業づくりに取り組む。
- ④「主体的・対話的で深い学び」の基礎となる自分ごととして考え判断し取り組んでいく力と基礎的・基本的な資質・能力を日々の学習を通して確実に定着させる。
- ⑤全学級で個々に丁寧に目を向け、特性や困り感に応じた特別支援的な教育的配慮と指導を行う。
- ⑥コンピュータを用いた授業やプログラミング教育の実践・充実に努め、確かな情報処理能力と論理的思考力を身につけさせる。
- ⑦キャリア教育の観点から人々の働く姿などを通して、体験的に働くことの意義を理解させる。
- ⑧外国語活動の充実と、外国語科の趣旨を踏まえた指導の実践・充実に努める。

(2) 豊かな心の育成

ふるさと教育・体験的な活動の充実

- 道徳教育・ふるさと教育の充実
- 人・自然に主体的にかかわる心、コミュニケーション能力の育成
- 互いを認め合い共生社会の実現を目指す心の育成
- 生徒指導の機能を生かした指導
- いじめのない学校づくり

【具体的取組】

- ①一人一人に愛情をもった丁寧なかかわりを行う。
- ②いじめ等、問題行動の未然防止、早期解決に向けた取組の充実に努める。
- ③道徳教育において、自分で考え行動する場面の重点化を図った指導を行うとともに「特別の教科道徳」の授業の充実を進める。
- ④地域の人・自然に課題意識を高め進んでかかわり体験的に学ぶ学習を全学年で実施する。
- ⑤豊かな感性や表現力、想像力をはぐくむため、読書活動の推進に努める。
- ⑥全校児童の学年を越えたつながりを高め、朝里小への所属感・一体感を育む集会活動の工夫に取

り組む。(※合唱などを通じた全校での集会の取組など)

(3) 健やかな体の育成

体力向上と健康教育の充実

- 運動やスポーツに親しむ心の育成を働きかける。
- 運動の楽しさや喜びを味わう多様かつ豊富な運動量を目指した体育授業の改善・充実
- 体力向上につながる新体カテストを活用した組織的な取組
- 食育に関する正しい理解と食習慣定着へ向けた健康教育
- 学校における新しい生活習慣の定着

【具体的取組】

- ① 休み時間に体育館・プレイホールやグラウンドでの体を動かす機会を可能な限り確保し、運動に親しむ心を育成する。
- ② 多様な運動と豊富な運動量を取り入れた体育授業の工夫・実践に取り組む。
- ③ 児童個々の運動能力の向上を目指して、意欲的に運動に取り組むことや運動習慣の向上へ向けた働きかけを行う。
- ④ 食に関する正しい知識と望ましい食生活を身に付けさせる。
- ⑤ 学校全体で、学校における新しい生活習慣についての意識を高める指導を行う。

(4) 家庭・地域との連携・協働の推進

学校と家庭・地域の連携・協働

- コミュニティースクールとして、目指す学校像・目指す子ども像を地域と共有し、共通の目標を示し、地域と共にある学校づくりを進める。
- 地域と連携した健康で安全な環境づくりと実践力を育てる教育活動の推進
- 基本的な生活習慣・家庭学習習慣の定着へ向けた連携・協働の推進

【具体的取組】

コミュニティースクールとしての取組

- ① 学校運営協議会において、学校運営推進及び教育活動充実へ向けた地域での取組や地域とのかわり方について検討し、協働的に進めていく。
- ② 地域の人材や環境資源等を生かした児童・保護者の子育ての充実や健全育成につながる事業を推進する。

家庭と協働した取組

- ① 「早寝・早起き・朝ごはん」の定着をさらに働きかける。
- ② 平日に「全く勉強しない」という児童がいなくなるよう全学年で働きかける。
- ③ 日々の体調管理（検温と体調チェック）と新しい生活様式の習慣づけの徹底を図る。

朝里中学校との小中一貫の取組

- ① 小中一貫した目標共有・取組の推進を図る。
- ② 教職員の連携関係強化と児童生徒に関する日常的な情報交流を進める。
- ③ 目指す児童生徒像の共有と共通実践の取組を推進する。
- ④ 9年間を見据えた教育課程の編成へ向け、連続性のある指導計画の作成を協働で進める。

地域の取組

- ① 情報の共有など協働活動につながる取組の推進を図る。
- ② 安心・安全な生活へ向けた地域での見守り活動の連携と情報共有を行う。
- ③ 地域行事への参加呼びかけや学習の連携を行う。

(5) 学びと育ちをつなぐ学校づくりの推進 学校課題へ対応する教員の資質・能力の向上

- 主体的な行動力を育む安全教育の取組
- 教員の資質・能力向上へ向けた研修の取組
- PDCAを活用した学校改善の推進

【具体的取組】

- ① 事件や事故から子ども自身が身を守ることができる能力（自ら行動する力）の育成を目指した安全教育を行う。
- ② 子どもの安全・安心を確保する取組と校舎内外の環境・施設の改善と充実を図る。
- ③ 教員の資質・向上を図る研修の取組を年間を通じて充実させる。
- ④ 定期的に児童の変容・教育活動を中間検証し、確かな学びにつながる学校づくりを進める。

(6) 生涯各期における学習機会の充実 各種施設の積極的活用

- 図書館・博物館の利用

【具体的取組】

- ① 各種施設のイベント周知や利用促進を行っていく。

(7) 文化芸術の振興と文化遺産の保存活用 市の文化財や活動の理解

- 小樽の文化財等を学ぶふるさと教育の学習の充実

【具体的取組】

- ① ふるさと教育等で積極的に各種施設等を利用していく。
- ② 小樽の自然や歴史、文化、産業等について理解を深める体験的な学習を充実させる。

(8) 生涯スポーツ・レクリエーションの振興 スポーツイベントの周知

- スポーツに親しむ働きかけ
- 体育設備の利用促進

【具体的取組】

- ① 各種施設のイベント周知や利用促進を行う。
- ② 体育館・プレイホールやグラウンドでの体を動かす機会を可能な限り確保するとともに、様々な場面を通じて、運動やスポーツに親しむ心を育成する。